特集

OTの臨床で使える運動・スキル学習の知識と実践

特集にあたって

作業療法では，さまざまな要因で障害された生活動作スキルを改善させることが重要な課題である．筋や関節あるいは神経の回復に合わせた基本動作訓練から，さらに生活における道具操作技能をターゲットとした介入へ，どのようにつなげていくのかという局面において，運動・スキル学習理論は必要不可欠な知識といえる．

今回の企画では作業療法と関連する運動・スキル学習理論の最新知識，作業療法臨床または研究において用いられる学習理論の傾向，さらに実際の臨床における学習理論を用いた訓練の考え方を紹介する．

誌面では，まず，これらをどのように理解し，作業療法に応用すべきかを述べる．また，実際の作業療法臨床や研究ではどのような学習理論が用いられてきたか，その変遷と最近の傾向を考察する．さらに，運動構成要素または基本動作レベルの改善をどのようにして生活における道具操作スキルの改善へとつなげるのかに関する疑問がある．この点をふまえて，機能をどのようにスキルへつなげていくのかの考え方と具体例を紹介する．加えて，高次認知機能面における遂行機能という概念を取り上げて，行動変容での学習面にもふれる．最後に，特殊な学習例，最先端の取り組み例として，盲の運動・スキル学習とブレイン・コンピュータ・インタフェースにおける学習理論の考え方についても紹介する．

いずれのテーマも非常に興味深い内容となっており，多くの作業療法臨床に役立つものと思われる．今回の特集が，作業療法の「根拠に基づく」という側面において，今後のさらなる発展に寄与するものとなることを期待する．（酒井　浩）

企画担当

酒井　浩（藍野大学，作業療法士）

宮崎明美（旭川荘みどり学園，作業療法士）

山本伸一（山梨リハビリテーション病院，作業療法士）

©MIWA-SHOTEN Ltd, 2018

2026/11/11 09:44:34